

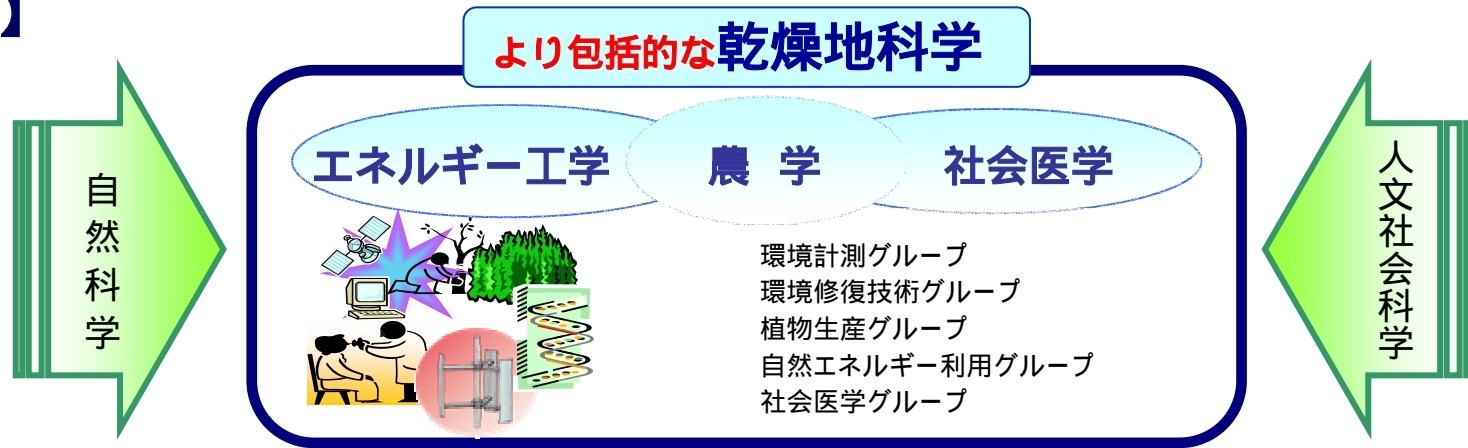
大 学 名	鳥 取 大 学	学 問 分 野	学際、複合、新領域（環境学）
専 攻 等 名	乾燥地研究センター、連合大学院農学研究科生物資源科学専攻、同生物環境科学専攻、工学研究科情報生産工学専攻、同社会開発工学専攻、医学系研究科社会医学系専攻		
拠点のプログラム名称	乾燥地科学プログラム		
拠点リーダー氏名	稲 永 忍	所属部局・職	乾燥地研究センター・教授
プログラムの概要	乾燥地の砂漠化対処に資するため、本拠点では、医学分野を含めた、世界に類を見ない、より包括的な乾燥地科学を構築するとともに、この研究を通じての大学院教育及び若手研究者の育成を図る。		
拠点形成の目的・必要性	<p>本拠点形成の目的は、乾燥地研究センターなどが、その前身を含めて過去 80 年間に蓄積した、砂地における植物生産や植生回復に関する知見と技術を広く世界の乾燥地土壌に適用可能なものへと高度化するとともに、これに公衆衛生学やエネルギー - 工学分野などの知見や技術を融合させて、世界に類を見ない、新たな乾燥地科学を構築することにある。</p> <p>地球の陸地面積の47%を占める乾燥地の砂漠化は、その解決が急がれる地球環境問題の一つである。わが国は、国連砂漠化対処条約批准国であり、財政支援義務とともに、科学技術面での貢献義務も負っている。すでに財政支援面に関しては世界最大のドナ - 国となっているが、科学技術面では今一層の貢献が求められている。したがって、砂漠化対処の基本となる乾燥地科学研究の推進は、重要かつ急を要するといえる。この乾燥地科学に関しては、強く自然科学と人文社会科学との統合が求められている。そこで本拠点は、比較的人文社会学との繋がり深い公衆衛生学をまず取り込み、順次、社会経済学分野等も巻き込んで、自然科学と人文社会科学との統合化を図る。</p> <p>本拠点は、より総合的な砂漠化対処計画の策定に資する成果や、砂漠化地域の住民が導入しやすい技術パッケージの開発に役立つ成果などを挙げることを目指す。このことは、わが国乾燥地科学の世界トップレベルへの高度化や、国連砂漠化対処条約批准国としてのわが国の科学技術面での貢献に繋がる。</p>		
研究拠点形成実施計画	<p>本拠点に属する16名の事業推進担当者は、環境計測グループ：地表や土壌中の水分・塩分動態解析と作物活性のモニタリング、環境修復技術グループ：環境修復技術の確立、植物生産グループ：持続的植物生産システムの構築と遺伝子組換えによる耐乾性・耐塩性植物の作出、自然エネルギー - 利用グループ：自然エネルギー - を利用した電力生産、集水技術、灌漑水反復利用技術の開発、社会医学グループ：環境教育と乾燥地保健医学の構築、のそれぞれに分属して研究教育の推進に当たるとともに成果の統合化を図る。</p> <p>研究実施地は、主に乾燥地研究センター、日本学術振興会拠点大学方式学術交流事業の研究ベンチマーク地域である中国黄土高原、国際乾燥地域農業研究センター（ICARDA、シリア）とする。</p>		
教育実施計画	<p>本拠点では、国連機関や国際農業機関、開発コンサルタント企業などの研究者、技術者の養成を目指し、本事業推進者に加え、当該分野における世界トップレベルの研究者や、国連環境計画、国連砂漠化対処条約事務局などの専門家を招へいしての英語による研究指導と講義、大学院生の「中国内陸部の砂漠化防止及び開発利用に関する研究」（日本学術振興会拠点大学方式交流事業、2001～2010年）の正式メンバーへの登用、海外研究教育基地とする中国科学院水土保持研究所やICARDA等での長期インターンシップの義務化、乾燥地科学に関する必修選択講義や演習科目の開設等の点に留意した教育を計画する。</p>		

乾燥地科学プログラム

【目的】

乾燥地の砂漠化対処に資するため、過去80年間に蓄積した砂地における植物生産や植生回復などに関する知見や技術を、広く世界の乾燥地土壌に適用可能なものへ高度化するとともに、社会医学やエネルギー工学分野などの知見や技術を融合させ、より包括的な乾燥地科学を構築する

【特色】



【意義】

- 学術的意義・・・砂漠化地域の住民が導入しやすい技術パッケージを開発
- 社会的意義・・・国連砂漠化対処条約への科学技術面での貢献

【大学院教育及び若手研究者の育成】

国連機関，国際農業機関，開発コンサルタント企業などの研究者，技術者の養成

乾燥地科学プログラムコース

国内，海外研究教育基地等での

国際教育，研究指導